

原 著

岡山県自然保護センターの両生類

岡山県自然保護センター 森 生枝

AMPHIBIA IN THE OKAYAMA PREFECTURAL NATURE CONSERVATION CENTER

Ikue MORI, *Okayama Prefectural Nature Conservation Center*

Abstract

This paper reports the occurrence of amphibia in the Okayama Prefectural Nature Conservation Center, based on a survey conducted between March 1993 and March 1995. A total of 9 species are listed, which is approximately the same number as in the previous investigation.

キーワード：岡山県自然保護センター、動物相、両生綱。

はじめに

岡山県自然保護センター（以下センター）の建設にあたっては、センター周辺（田尻大池を含む地域）で、造成前の1988年および1989年に、生物相の調査が行われた。このうち両生綱は、9種が確認されている（佐藤ほか、1990）。本調査は、前回の調査から5年後に、センターが造成された影響が両生綱相にどのような影響を与えているか、また今後の両生綱相の変化を知るために記録をとどめておくことを目的として行われた。一部の種については、特記事項として産卵等に関する確認記録を付した。

現地調査では、センターの敷地内にある大小の池（もともとある池の他に人工の池が作られた）および池周辺の水域を中心に、できる限り多くの種を記録するように努めた。特に川崎医科大学の益田芳樹氏、清心女子高等学校の秋山繁治氏には協力をいただいた。なお同定にあたっては、川崎医科大学の佐藤國康先生からご教示を受けた。これらの方々に深く感謝する。

調査地の概要

センターは岡山県和気郡佐伯町田賀にあり、岡山県中部の東よりに位置している（図1）。水系は岡山県を流れる3大河川のうち吉井川の水系に属する。この地域の気候は温暖で乾燥した瀬戸内海気候区に属している。

センターの敷地は約100ヘクタールあり、中心にある約8ヘクタールの大きな池を中心として、池に向かっていくつかの谷が入るすりばち状の地形をしている。稜線までが敷地で、1つの集水域をすべて含んでいる。

本調査地の大部分を占めている植生はアカマツ林である。田尻大池、上池の周辺にはいくつかの谷が刻まれており、その谷には水田として利用されていた跡地がみられる。水田跡地のいくつかはセンターの建設が決定してから放棄されたものもある（西本、1994）。

方 法

調査は、踏査による個体および卵塊の目視確認、および鳴き声の確認により行った。なお、調査期間は1993年3月から1995年3月までとした。

結 果

調査の結果確認できたのは、2目6科9種であった。その詳細は目録として示した。

考 察

両生綱の確認種数は、前回の調査と同じく9種であった。

前回の調査で確認されたが本調査では確認されなかった種は、ツチガエル1種であった。本種の特徴等を下記に示す。

ツチガエル *Rana (Rana) rugosa* Temminck et Schlegel, 1838

平地から低山地にかけて分布し、高地には少ない。市街地の池から山地の溪流付近、広い河川の川原まで広い範囲に生息するが、水辺のすぐ近くに生息し、これを離れることはない。繁殖期は長く、5月から9月におよぶ。餌としてアリを非常に多く食べるのが特徴。また幼生は越冬する（前田ほか, 1989）。

また宇賀神(1994)は、茨城県筑波山麓に広がる水田地域の水路を調査した結果、ツチガエルの成体が水路内に存在する水面下にできた隙間などを利用して越冬していたことを報告している。

センターの造成工事においては、水田跡地に存在した石組みおよび水路を除去・埋立てて、新しく水路を造り直した箇所が多い。センターの造成

が本種の生息に影響を及ぼしたかどうかは明らかでないが、その可能性も否めない。

センター内においては、調査期間中に雄の鳴き声も確認しなかった。本種の生息については、今後継続して調査していく必要がある。

また今回の調査で新たに確認された種は、イモリ *Triturus (Cynops) pyrrhogaster pyrrhogaster* 1種であった。

○特記事項

1993年～1995年の、産卵等に関する確認

・ニホンアカガエル

湿生植物園および虫の原っぱの水辺を1994年、1995年に調査した。

1994年には、1月20日から4月2日までの間に957卵塊を確認した。また1995年には、2月2日から3月30日までの間に294卵塊を確認した。詳細は別途公表する予定である。

・ヒキガエル

1993年～1995年に確認できた産卵場は3ヶ所、卵塊数は5卵塊であった。産卵場の内訳は、Eで2ヶ所、Cで1ヶ所、また卵塊数の内訳は、1993年に1、1994年に0、1995年に4であった。

産卵日が特定できたのは2卵塊で、内訳は1995年3月19日～20日に1卵塊、同年3月20日～21日

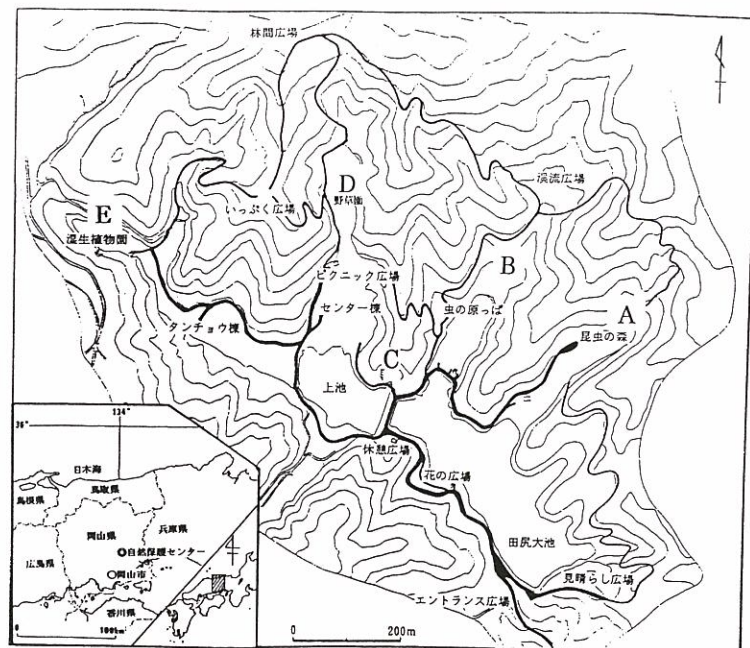


図1. 岡山県自然保護センターの位置と名称。

に1卵塊であった。その他の3卵塊については、発見時にすでに発生がかなり進行していた。内訳は、1993年3月25日に尾芽胚期のもの1卵塊、1995年3月27日に尾芽胚期のもの1卵塊、1995年3月31日に卵塊のほとんどが孵化していたもの1卵塊であった。

産卵場の特徴としては、確認した3箇所はすべて山林に接した水域であった。3箇所の内2箇所は、湿生植物園造成のため、1991年に造成した池である。3箇所の内の1箇所には、1993年および1995年にそれぞれ1卵塊の産卵が見られた。

付記

1993年3月25日に尾芽胚期であった卵塊の、自然条件下での様子は次のようであった。

1993年5月5日、孵化した幼生は5塊の集団となっていた。

1993年5月24日、幼生に後肢が形成されていた。

1993年5月28日、幼生は2塊の集団となっていた。

1993年6月6日、幼生の一部は変態し水際にいた。

1993年6月14日、幼生ならびに子ガエルは、6月6日に観察した場所には見られなかった。

なお、1995年3月29日に上池および田尻大池の汀線を全周したが、新たな産卵場は確認されなかった。

・トノサマガエル

湿生植物園および虫の原っぱの水辺を1994年、1995年に調査した。

1994年には、4月14日から5月28日までの間に59卵塊を確認した。また1995年には、4月10日から5月18日までの間に67卵塊を確認した。鳴き声の初認は両年とも4月10日であった。また両年ともに、6月の初旬には、新たに産卵された卵塊は認められなかった。

・シュレーゲルアオガエル

湿生植物園、虫の原っぱ、および水生植物園の水際を1994年、1995年に調査した。

1994年には、4月2日から6月6日までの間に8卵塊を確認した。1995年には、3月31日から6月12日までの間に1卵塊を確認した。鳴き声の初認は1994年が4月2日、1995年が3月31日であった。

・ウシガエル

鳴き声の初認は1994年が4月20日、1995年が4月15日であった。

1994年5月18日には、上池の中央付近で約25匹が水面上に上体を出し鳴き合っていた。雄による激しい鳴き合いが1994年5月14日、15日、18日、21日の日中に観察された。1995年5月18日には上池中央付近の、エビモが繁る水面上で10数匹が上体を出し鳴き合っていた。エビモが繁る水面上には、卵塊と思われるものが数個、白く浮かんでいるのが池岸から肉眼で観察された。

・ニホンアマガエル

鳴き声の初認は1994年が4月3日、1995年が4月10日であった。

・イモリ

成体をA、B、D、Eの谷で確認した。また、幼生もしくは幼体をB、D、Eの谷で確認した。

・カスミサンショウウオ

1994年にはA、B、Dの3つの谷で、また1995年にはA、B、D、Eの4つの谷で卵塊を確認した。

引用文献

- 前田憲男・松井正文、1989. 日本カエル図鑑、206pp. 文一総合出版、東京。
- 中村健児・上野俊一、1963. 原色日本両生爬虫類図鑑、214pp. 保育社、大阪。
- 西本孝、1994. 岡山県自然保護センターの植生概要—開設前後の植生図による植生比較および植生概要—。岡山県自然保護センター研究報告、(2):1-12.
- 岡山県環境部自然保護課、1980. 岡山県の両生・爬虫類、92pp.
- 佐藤國康・益田芳樹・泰山浩司・大野倫子・井上雅恵、1990. 佐伯町田尻大池周辺の動物。岡山県佐伯町田尻大池周辺の自然、26-65. 岡山県環境保健部自然保護課。
- 宇賀神知則、1994. ツチガエル生息地における水路の重要性。第33回日本爬虫両生類学会大会講演要旨。日本爬虫両生類学雑誌、15(4):152.

岡山県自然保護センター両生綱目録

種名の和名および学名は、中村ほか(1963)にしたがった。なお、採集標本および記録写真はすべてセンターに保管している。

両生綱 Amphibia

サンショウウオ目 Caudata

サンショウウオ科 Hynobiidae

カスミサンショウウオ属 *Hynobius*

カスミサンショウウオ *Hynobius (Hynobius) nebulosus nebulosus* (Schlegel, 1838)

イモリ科 Salamandridae

イモリ属 *Triturus*

イモリ *Triturus (Cynops) pyrrhogaster pyrrhogaster*

カエル目 Salientia

ヒキガエル亜目 Arcifera

ヒキガエル科 Bufonidae

ヒキガエル属 *Bufo*

ヒキガエル *Bufo bufo japonicus* Schlegel, 1838

アマガエル科 Hylidae

アマガエル属 *Hyla*

アマガエル *Hyla arborea japonica* Gunther, 1858

アカガエル亜目 Firmisternia

アカガエル科 Ranidae

アカガエル属 *Rana*

ニホンアカガエル *Rana (Rana) japonica japonica* Gunther, 1858

トノサマガエル *Rana (Rana) nigromaculata* Hallowell, 1860

ウシガエル *Rana (Rana) catesbeiana* Shaw, 1802

ヌマガエル *Rana (Rana) limnocharis* Wiegmann, 1835

アオガエル科 Rhacophoridae

アオガエル属 *Rhacophorus*

シュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii* (Gunther, 1858)